



R3年度小学校英語授業づくりプロジェクト(第1回目研修)

私の授業実践 ③ ～宇城市立松橋小学校 一ノ口 美奈 先生～

6年 単元名「Let's go to Italy.」

○単元を通した学習課題

自分が行ってみたい国を選んでもらうために、おすすめの国のよいところをアピールしよう。

○本時の目標(3/8)

外国への旅行をおすすめするために、その国でできることなどを伝えることができる。

継続的に文字の「音」の読み方を指導し「読むこと」につなげる

授業冒頭のウォームアップ。一ノ口先生は、子供たちが自信をもってコミュニケーションを図ることにつなげるために、毎時間継続的に取り組まれている活動があります。

その一つが、文字(アルファベット)の「音」の読み方に慣れ親しませる活動です。英語のアルファベットにはその「名称」の読み方(Aは/ei/)だけでなく、「音」の読み方(Aは/æ/など)があります。このアルファベットの「音」の読み方については、5,6年生の外国語科において取り扱っていただきたい事項の一つです。アルファベットの「音」の読み方への気付きが、簡単な語句や基本的な表現を推測しながら「読むこと」につながります。

しかしながら、教科書には、このようなアルファベットの「音」の読み方に焦点化した単元があるわけではないので、指導者が、児童の実態に応じて計画的、継続的に慣れ親しませていくことが必要です。

一ノ口先生は、子供たちが、アルファベットの「音」の読み方に抵抗なく楽しみながら慣れ親しむために、チャンツのリズムに合わせて発話する活動を取り入れておられました。そして、参観した授業では、個々の子供たちが自信をもって発話している姿があり、継続した取組の成果であることを感じました。

アルファベットの「音」の読み方の指導については、外国語科の学習の初期である5年生から継続的に慣れ親しませる活動を取り入れることが重要です。今回の一ノ口先生の実践をヒントに、ぜひ、各学校での取組の参考にされて下さい。

児童の実態に応じて教科書を効果的に活用する

今回、教科書を活用した授業実践を見せていただきました。教科書の活用については、目の前の子供の実態に合わせてアレンジして活用することが必要です。

一ノ口先生は、例えば、各国の有名なものについて聞き取る活動で、「教科書に掲載されている10か国全てを扱うのではなく、子供の興味・関心や学習状況に合わせて取り扱う項目を5か国程度に限定する」、「1回目は『内容』を聞く、2回目は、使用されている『表現』に着目して聞くなど、聞く視点を子供たちに持たせて何度も繰り返し聞かせる」といったように、明確なねらいをもって教科書を活用されていました。

教科書の活用では、紙面上の活動で終わらせず、掲載されている絵や写真などを話題にしてやり取りをしたりすることで、効果的な活用が図られます。例えば、紙面上のイタリアの国旗を取り上げて、「Do you want to go to Italy?」「What can we see in Italy?」など、指導者と子供たちで簡単な対話をおすすめします。このようなやり取りにより、教科書内の活動にとどまらず、自分の考えや思いを伝える言語活動に発展させることができ、教科書の効果的活用にもつながります。



(教科書のデジタル教材を活用)